

学校教育目標	創意と活力をもって感動の教育を行い、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な児童の育成を目指す。
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた子どもの育成を推進する。	
《重点目標2》 心身ともに健康で、安心・安全な学校づくりを推進する。	
《重点目標3》 家庭・地域と連携し開かれた学校づくりを推進する。	

【評価の見方】
 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた
 C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に対する取組	【授業改善①】 ○<児童質問紙(47)>「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答をする児童の増加 【授業改善②】 ○<児童質問紙(49)>「授業では、学級の友達と間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をする児童の増加	○管理職や教務主任等が毎日参観をし、教員の指導力を把握するとともに授業改善につながる助言を行う。また、学期末に児童アンケートをとり、児童の学びの実態を把握する。 ○各学級の具体的な改善に向けたPDCAサイクルを確立し、学力向上推進教員がOJTや助言を行う。 ○一単位時間の授業の中で、必ず「話し合う活動」を取り入れることを全教科で取り組む。教師と子どもの一問一答ではなく、児童が自分の意見を語るができる発問を工夫する。また、それを受容することができる学級の雰囲気醸成し、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。	B	【授業改善①】 ○1月に実施した北九州市学力調査で、「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答をする児童が増加し、目標値を達成した。 【授業改善②】 ○1月に実施した北九州市学力調査で、「授業では、学級の友達と間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」という設問に対し肯定的な回答をした児童が増加し、目標値を達成した。授業改善により話し合い活動の活性化が進んだ。 ◆来年度は、自らの考えを自信をもって表現できるように、学年に応じた表現方法の指導や場の設定の工夫を行う。
	【補充学習】 ○<児童質問紙(33)>「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」について、肯定的な回答をする児童の増加	○算数の計算領域について、2～6年で「スクリーニングテスト」を実施し、実態把握を行う。 ○朝の活動(音読・漢字・読書・計算)の「内容」を吟味、共通理解し、「準備・点検・評価」の役割分担を明確にして実施する。 ○放課後に、各学年30分週2回の補充学習を実施する。(年間25週)その際、ひまわり学習塾を活用する。 ○朝の活動や補充学習で、「学力定着サポートシステム」を活用する。 ○低学年においてMIM指導を、全学年において月1回のMIMアセスメントを実施する。	A	【補充学習】 ○1月に実施した北九州市学力調査で、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」について、肯定的な回答をした児童の割合が100%であり、目標値を大きく上回った。来年度も本校の補充学習のシステムを、新しい職員へ円滑に引き継ぎ、維持・発展できるよう体制を整える。
	【家庭学習】 ○<児童質問紙(14)>「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上している」と回答する児童の増加	○家庭学習について宿題を中心に「時間(低30分中45分高60分)」、「内容」、「量」、について共通理解を図るとともに、「準備」と「点検・評価」の役割分担を明確にして取り組む。 ○毎月第1週の「家庭生活・学習がんびり週間」の取組を実施する。	C	○1月に実施した北九州市学力調査で、「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上している」と回答する児童が増加したものの、目標値には届かなかった。 ◆来年度は学習時間に限らず、ゲーム・テレビ視聴、ネット・スマホ使用など、放課後の時間の使い方を見直す指導を全学年で行う。また、家庭的に厳しい状況の児童へは個別に指導する。 ◆引き続き「家庭・学習のてびき」の活用し、児童や保護者への啓発を行ったり、「家庭生活・学習がんびり週間」の年間の結果を分析し、児童への指導の在り方を全職員で共通理解していく。
体力向上に対する取組	【授業改善】 ○<児童質問紙(17)>「体育の授業は楽しいですか」について、肯定的な回答する児童の増加	○体育授業の準備運動では、体力向上プログラムを活用しジャンプアップ運動又はキッズダンスを必ず行うようにする。また、25分間以上の運動量を確保する。 ○学習のめあてや1時間の流れを児童が理解するとともに、学習の成果を振り返ることができるように、主に器械運動の領域において「体育カード」を作成し、使用する。	A	○本年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査で、「体育の授業は楽しいですか。」という設問に対し肯定的な回答をした児童の割合は96%と高い数値であった。今年度有効であった「体育カード」を集約し、来年度以降も当該学年が使えるようデータの管理を行う。また、今年度実施した小中高連携の体力テストも継続して実施する。
	【運動習慣】 ○<児童質問紙(17)>「学校の体育の授業時間以外でも運動やスポーツを行っていますか。(※60分以上行う割合)」について肯定的な回答する児童の増加	○一校一取組として、年間をとおして、週1回、各学年の体育や特活の時間に、スポコン広場の「みんなでなわとび」に取り組む。 ○運動場に「運動に親しむ場」(ドッジボールコート・サッカーコート・バスケットボールコート・トラック)を常設する。	B	○本年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査で、「体育の授業以外で、1日にどのくらい運動やスポーツをしていますか。」という設問に対し「1時間以上」と回答をした児童は大きく増加し、目標値を達成した。 ◆一方、2月に実施した「生活アンケート(3～6年)」では「1時間以上」と回答をした児童の割合は低く、年度当初とほとんど変わりなかった。一方で「全くしない」と答えた児童の割合は減少した。来年度は、放課後の運動場開放の呼びかけ、ボール等の貸し出しなど運度の機会を設けることで、全学年での運動時間の増加、運動に対する意識の向上を図る。
心の育ちに関する取組	【授業改善①(道徳)】 ○<児童質問紙(9)>「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答をした児童の割合[80%以上] ○<児童質問紙(43)>「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答する児童の増加	○道徳の時間に内容項目「希望と勇氣、努力と強い意志」に関する教材を学期ごとに行い、重点的に取り組む。また、生活科や総合的な学習の時間において、地域人材や保小中高の連携をいかした交流活動を積極的に実施する。 ○特別活動の委員会活動で児童の自発的・自治的活動が展開されるように、常時活動・集会活動の指導を工夫する。	B	○1月に実施した北九州市学力調査で、「将来の夢や目標を持っていますか。」という設問に対し肯定的な回答をした児童が増加し、目標値を達成した。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」についても、肯定的な回答する児童が目標値を達成した。来年度も、異校種や地域との交流を計画的に設定し、児童の活躍の場を作り、多くの人から認めらることで児童の自尊感情が高まるようにする。
	【授業改善②(特別活動)】 ○<児童質問紙(6)>「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答する児童の増加	○「北九州市子どもつながりプログラム」の内容を取り入れた「城野小人権・部落問題カリキュラム」の重点実施期間を設け、全学級で確実に実施する。 ○各学級の学活や帰りの会で学級目標達成に向けた言動に対して、互いを認め合い、褒め合う「友達のよいところみつめ」等の活動を実施する。 ○SUTEKIアンケートを全学級で実施し、児童の心の状況を把握し、指導に生かす。	C	◆1月に実施した北九州市学力調査で、「自分には、よいところがあると思いますか。」という設問に対し肯定的な回答をした児童の割合は目標値を達成できなかった。今年度実施したSUTEKIアンケートの結果の分析と合わせ、なかなか自信がもてない児童に対して日常の授業や学校行事等を通して勇気付ける評価を行ったり、活躍の場を設定したりするなど個に応じた支援を行う。
安心・安全の取組	○いじめの未然防止、いじめゼロを目指す。 ○児童の教育的ニーズを把握して、自立に向かうための指導・支援と校内体制を構築するとともに、関係機関と適切に連携する。	○年間3回の「生活のアンケート」とその結果を受けての教育相談(担任による面談)を全校で実施する。 ○いじめと認知した事案については、校内いじめ問題対策委員会を開き、SC、SSWとの連携を図りながら組織的に対応する。 ○特別支援教育に対する理解が深まるように、職員全員参加の授業公開と協議会を行う。また、特別支援教育課の指導主事を講師として要請し、研修会を実施する。 ○特別な支援が必要な児童、保護者との話し合いを行い、適切な関係機関と連携、支援ができるようにする。	B	○「生活アンケート」を計画通りに実施できた。また児童全員を対象とした担任による面談を行うことで児童の友達関係を把握することができた。 ○担任だけでなく、養護教諭やSCなどと連携を図ることで児童が話ができる大人が増え、心の安定を図ることのできる児童が増えた。 ○関係機関との連携を推進し、特別な支援を必要とする児童に対する支援体制を整えることができ、児童が落ちついて過ごし、学習することができた。 ◆来年度は特別支援学級に新1年生の児童が3名入学する。児童のニーズに応じて、よりよい支援の在り方や専門機関との連携ができるよう、保護者、保育園、関係機関との連絡会を綿密に行い、支援体制を構築する。
開かれた学校づくりの取組	○「あいさつ日本一」を達成できるように、日々の継続的指導を行う。 ○保護者、地域と情報を共有し、連携を推進する。	○計画・集会委員会が中心となり、毎月「0」の付く日に、全校であいさつ運動に取り組む。 ○学年・学校通信、学校ホームページを通して積極的に情報発信を行う。 ○学校ホームページを毎月更新する。 ○授業参観や学校開放週間を通して、情報発信を行う。 ○地域の行事や祭りなどへの積極的な参加を促す。	B	○あいさつの取組は、委員会の取組を5年生が引き継いで行ったため、全校的にあいさつの声がかかってくるようになってきた。来年度は「自分から」という目標設定をし、さらに定着・発展させたい。 ○学年・学校通信の発行、ホームページの更新を定期的に行うことができた。 ◆ICTサポーターの来校日の都合があり、タイムリーにホームページの情報更新ができない部分もあった。来年度は、学校職員(もしくはスクールヘルパー)でホームページの更新ができるよう体制を整備する。 ○5・6年生が「城野夏祭り」「校区敬老会」「市民センター文化祭」で城野ソーランを披露するなど、積極的に地域行事に参加し、地域に貢献することで自尊感情も高まった。